
フォルニアストーリー

広君壱号

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

フォルニアストーリー

【Nコード】

N0728F

【作者名】

広君壱号

【あらすじ】

ネットゲームにそっくりな世界に、行ってしまった、篠崎光矢、彼はこの世界で何をし、何を得、何を見るのか、彼がこの世界に呼ばれた理由とは。

プロローグ

世界は1つではない。それは、行くことも、見ることも出来ないが確かに存在する。

だが、もしもほかの世界に行けるとしたら、如何するだろう。

もしかしたら、そこは夢のような世界かもしれない。

もしかしたら、地獄のような苦痛に満ちた世界かもしれない。

一握りの希望を、胸に抱き旅立つか？ それとも今の生活を守るか？。

貴方ならどうしますか。

「なあゝゝ、おまえ本当に知らないのか？、ぜってー嘘だろう。」

「だから知らないと何度も言っているだろうが。」

俺は、友人の言葉に少しイラつきながら返した。

「でもよー、今じゃテレビにとりあげられる程、有名になってるんだぞ知らないというほうが信じられん。」

「知らねーんだからしょうがないだろうが。」

俺達が、今話しているのは今話題のネットゲームだ。友人の話によると今じゃかなりの人数がそのネットゲームに嵌っているらしい。やっていなくてもテレビで何度も取り上げられているから、ほとんどの人が知っているらしい。

だが、俺はあまりゲームというものに興味がないので、全くと言っていいほど全然知らなかったのだ。

それを聞いた友人はかなり驚いていた、とゆうよりは馬鹿にするような感じだった気もする。少しムカついた。

しかし、俺が本当に知らないとなると、友人は水を得た魚のごとくそのネットゲームがどれほど素晴らしいか話し始めた。しかし1時間たっても終わらない友人の話を、俺はこぶしで止めることにした。

友人の話を要約するとネットゲームを作っている会社が、協力して持てる技術を全てつぎ込んで作っただけらしい。ちなみに製作にたずさわった会社は10をこえるらしい、莫大な制作費と製作時間、そしてプログラマー達の努力の甲斐あってかサービスが始まったとたんに大勢のプレイヤー達が殺到した、その人気たるや1月にして他のネットゲーム圧倒しまくっただけらしい。さらにゲームをより楽しく、

より遊びやすくする為に、プレイヤー達の要望などを取り入れ、今までに30回以上改良&拡張をしたらしい。その甲斐あってか、いまやこのネットゲームは名実共に1位となったのだ。

ちなみに、このネットゲーム名前を「フォルニアストーリー」と言う

第一話「異世界の扉」

大人気ネットゲーム「フォルニアストーリー」。

ぶっちゃけると、異世界「フォルニアス」を舞台に自分の分身となるプレイヤーを作って様々な事をすると言っことになる。

これだけだと、あまり凄くないと感じるだろうと思うが、このゲームでできることが凄まじく多いのだ。どんなものがあるか少しだけ説明しよう。

まずは「冒険者」1番選ぶプレイヤーの多い職業の1つである。モンスターを狩ったり、強力な武具をさがしたり、モンスターから貴重なアイテムを取ったりして自分のプレイヤー強くしていくオーソドックスな職業の1つだ。

「商人」これはその名のとおり、物を売って金を稼ぐ職業だ。ちなみに扱うものは、食料に始まり、衣料品や薬品それに武具や工芸品など実に様々だ。このゲームには物価などが詳しく設定されているので、たまに物価が大暴落をしたりすることもある。

しかも売り物を仕入れるために町から町へ、へたをすると辺境の村まで仕入れに行かないといけないので、かなり大変な職業である。

「鍛冶師」武器や防具を自分で作る職業だ。鉱石や鉄などの素材の使い、強力な武具や特殊な力を宿らした武具などを作ることでも可能だ。ちなみにこのゲームは、アイテムの種類が豊富すぎて、武器だけでも700を超えているらしい、防具にいたっては正確な数は不明と言うくらい多いから驚きである。

そんな感じで、作れるアイテム数の多さから、この職業を選ぶプレイヤーも結構多い。

「生産者」これは簡単に言うと農業や牧畜などといった事をする文字どつりな職業である。

食べ物や薬草の類を育てたり、動物を飼育したりできる。

ちなみにこの職業、意外にもやってるプレイヤーが多い。その理由は疲れたかららしい

詳しく説明すると、このゲームは出来ることが多いせいで、色々やることがたくさんあり、それに疲れた人がこの職業に転職するのである。プレイヤー曰くスローペースのんびり出来るのが良いらしい。

このような職業が60種類以上あってその中から自分の好きな職業を選んで遊ぶことになる。

1つの職業を極めるのもよし、複数の職業を兼業して楽しむのもよし。

こうやって自分の好きなように楽しむのが、このゲームの本質である。

俺の名前は篠崎光矢17歳、先日友人達と話をしていたらこの「フオルニアストーリー」の話題が出て俺がまったく知らないのを知るとこのゲームがどれほど面白いかを熱く語りだして、しまいには俺のもやったらどうだと勧めだして俺としてはあまり興味がなかったのだが結局最後はおれるようなかたちでやることを約束してしまった。それから少しすると解散になってみんな自分の家へと帰っていった。

「ただいまー」

帰りの挨拶が家へと響くが誰の返事もない。それもそのはず一人暮らしなのだから返事があつたほうが恐ろしい、俺は荷物を置くとそのままパソコンへとむかい電源をいれる。このままやめたいがそうするとそうすると明日あたりに友人達が文句を言ってくる可能性があるし、なにより嫌々ながらとは言えやると約束してしまったので俺はそのままパソコンを操作し始める、画面に「フォルニアスストーリー」のメインページが表示される。俺は友人たちの言った通りに操作を続けるすると職業の選択肢の画面になった。

「うーん、どれにしようかなあいつらはどれを選んでも楽しいと言ってたけど、てか職業「暗殺者」てなんだよ職業じゃねーだろ」
どの職業に悩んだが結局

「これでいいか」

そういつて俺は「冒険者」の職業をクリックした、すると最終確認の画面が開いた。

名前の欄には「コウヤ」と入っており職業の欄には「冒険者」入っていた。

ちなみに名前は漢字でも入力することも出来たのだがなんとなくカタカナにしてみました。

全ての項目を確認してゲームを始めるをクリックした。すると

ボンツ シューー

「どわっ」

いきなりパソコンが煙を上げて停止してしまった。これには俺もびっくりしたまだ買って1年も経っていないパソコンがよもやこんな事になるうとは、火がおこってないことを確認すると俺はパソコンを買った店に電話で苦情を言おうと立ち上がるとあることに気づいた。

何も映さなくなったはずのディスプレイにたった一言だけ表示されていた。

「異世界の扉を開きますか？」

その下には「開く」「開かない」の二つが表示されていた。

「なんだこりゃ」

俺は近づいてよく見てあることに気づいた。

「パソコン本体が動いてないのになんでこれは表示されてるんだ」

パソコン本体の方はいまだ煙を出し続けて動いているようには見えない、そしてもう一度ディスプレイの方を見ると変わらずそこに表示されていた。

「異世界か」

俺は独り言をつぶやき画面を見ていた、そしていつのまにかマウスを手に取りクリックボタンを押していた。

画面から「開く」が消え「開かない」だけが表示される、俺が選んだのは「開く」だった。

なぜこちらを選んだのか？と問われると

「わからない、無意識のうちにボタンを押していた」

と答えるだろう。

だが未来の俺ならこう答えるだろう。

「運命、それもとびきり最高のな」

だがいまの俺には知る由もなくディスプレイから文字が消えたと思っただけでいきなり光って俺の意識を奪った。

この日、篠崎光矢はこの世界よりいなくなる。運命の扉は今開かれた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0728f/>

フォルニアストーリー

2010年10月11日12時56分発行